

## もしもに備えて



### AED を躊躇なく 使いましょう

今回は AED (自動体外式除細動器) について、災害医療センターの金村剛宗医師 (救命救急センター) に伺いました。



#### ①一人で対応せず、みんなで協力を

もしも倒れている人を見つけたら、まずは呼び掛けて、反応があるかどうか (意識や体の動きなど) を確かめましょう。同時に、大きな声で周囲の人に知らせ、協力を求めましょう。119番で救急車を呼んでもらうと同時に、反応がまったくなく、心臓が止まっている疑いがある時は、躊躇せず心臓マッサージを開始し、他の人に AED を持ってきてもらいましょう。心臓マッサージにより、脳に酸素を送ることが最優先です。

#### ②AED のアナウンスどおりに

AED は使い方をすべて AED 自体が発するアナウンスで教えてくれます。指示通りにパッドを体に当てれば、電気ショックが必要な心室細動 (心臓が細かく震え血液を送り出せない状態) かどうかを自動的に判断し、電気ショックが必要かも指示してくれます。ただ、AED はあくまで電気ショックが必要かを判断し電気ショックを与える機器です。より大切なのは、電気ショックが必要ないと AED が判断しても、倒れた人が何の反応もない場合、救急車が到着するまで心臓マッサージを続けることです。

#### ③1秒がその人の人生を大きく変えます



脳に酸素が送られなくなった状態から、1秒でも早く心臓マッサージを開始できるかで、命はもちろん、その人の社会復帰 (障がいが残るかどうかなど) に大きく影響するので、一度練習しておくためにも、地域の消防署などで開催される救命蘇生講習に、ぜひ参加してみてください。

#### ■災害医療センター (東京都立川市)



許可病床数 455 床。災害医療の拠点として日本 DMAT 事務局があり、災害医療従事者研修、災害対応訓練、災害看護訓練などを日本中で展開している。